

2008年9月期 上半期決算説明資料

2008年5月

フィンテック グローバル株式会社

(東証マザーズ:8789)

<http://www.fgi.co.jp/>

本決算資料に記載されている業界の動向や分析、今後の見通し、戦略等は、現在入手可能な情報から弊社グループの経営陣が判断したものでありますが、様々な要素により将来の事業を取り巻く環境が大きく変動することも考えられます。

従いまして、将来の戦略及び業績等につきましては当該決算資料と異なる可能性がございますことをご了承下さい。

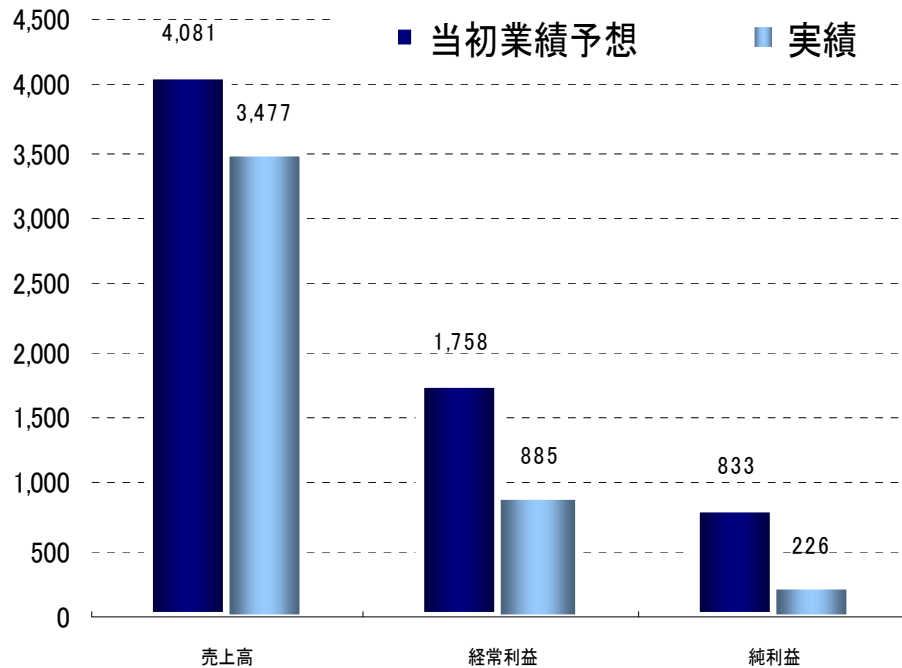
2008年9月期 上半期 業績の総括及び下半期施策

2008年9月期 上半期業績(個別・連結)

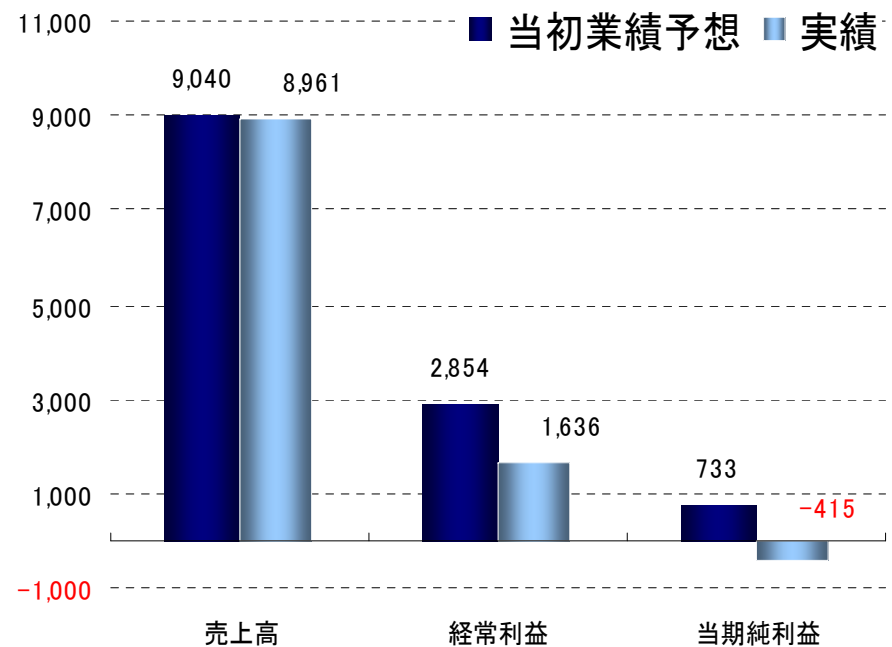
個別 (単位：百万円)	2008年9月期 上半期 業績予想	2008年9月期 上半期 実績	増 減
売上高	4,081	3,477	-603
経常利益	1,758	885	-872
純利益	833	226	-607

連結 (単位：百万円)	2008年9月期 上半期 業績予想	2008年9月期 上半期 実績	増 減
売上高	9,040	8,961	-78
経常利益	2,854	1,636	-1,218
純利益	733	-415	-1,149

(単位：百万円)



(単位：百万円)



2008年9月期 上半期業績(個別)

(単位：百万円)

個別	当初業績 予想	1Q実績	2Q実績	上半期実績
売上高	4,081	2,486	991	3,477
売上総利益	-	2,378	888	3,267
販管費	-	557	1,864	2,421
営業利益	1,988	1,821	-975	845
経常利益	1,758	1,811	-925	885
特別損失	-	182	300	482
純利益	833	954	-728	226

売上に関しては、1Qは大型案件の一部組成が完了したことにより、大きく伸長したものの、2Qにおいては、サブプライムローン問題に端を発した金融市場混乱の長期化により、営業環境が悪化したこと、及び当社の案件の審査基準を厳格化したことにより売上高未達となりました。また、医療機器案件にかかる貸倒引当金（1,268百万円）を販管費に計上、加えて、子会社フィンテック グローバル証券に対する投資損失引当金（256百万円）を特別損失に計上したこと等により、利益ベースにおいては大幅な未達となりました。

2008年9月期 上半期業績(連結)

(単位：百万円)

連結	当初業績 予想	1Q実績	2Q実績	上半期実績
売上高	9,040	6,011	2,950	8,961
売上総利益	-	4,497	2,804	7,302
販管費	-	1,851	3,137	4,989
営業利益	3,035	2,646	-333	2,312
経常利益	2,854	2,453	-817	1,636
特別損失	-	168	19	187
純利益	733	698	-1,114	-415

売上高に関しては、エフエックス・オンラインの売上が予想を上回るも、FGI単体及びその他子会社の業績が計画未達となり、ほぼ予想通りの実績となりました。

医療機器案件にかかる貸倒引当金（1,268百万円）を販管費に計上、子会社の為替差損及び有価証券評価損（475百万円）の発生、FXOの少数株主持分55%の控除等（755百万円）により純利益ベースでは△415百万円となりました。

医療機器ファイナンス案件について

当社子会社の出資する任意組合が医療機関向け機器及びコンサルティングに必要な資金調達のための取組みに22億円を出資。3月21日が償還日だったものの、現時点においても、契約上の債務者である丸紅株式会社から同組合に対し資金が償還されておられません。現状、報道されている通り、ほぼ同様の投資を行った金融機関による提訴が行われております。一連の取組みの中で、3月末時点において時価約19億円相当の上場株式を担保として保有しているものの、担保物の評価を金融検査マニュアルの自己査定基準を鑑みながら保守的に考慮し、時価の概ね半分とした結果、**当債権について販売費及び一般管理費に連結・個別ともに貸倒引当金繰入れを1,268百万円計上することとなりました。**なお、本件に関しては、事件性が強いものと考え、関係当局に相談し、全面的に捜査に協力しており、さらに当社としても独自に事実関係を調査するとともに債権回収に努めてまいります。

当社はこれまで、**当社のアレンジする案件に自己資金を拠出すること、または企業成長の為に資金を供給することを原則としておりました。**しかしながら、同案件は、大型医療機器ファイナンスへのノウハウを取得する目的で、他社アレンジの案件にプリンシパル投融資を行った案件であり、原則から外れ、このような結果に至ったことに関して、深く反省をしております。

2008年9月期 上半期施策及び下半期実施済施策

営業強化

- **金融環境に左右されない「新たな資金拠出者（海外投資家等）」の開拓**

資金拠出者の開拓をさらに進めるべく資本市場部を新設
海外不動産ファンドからの資金招聘を企図

- **審査体制・営業力強化のため、組織を小ユニット化し、人材育成強化（4/1）**

- **非不動産分野に注力、1QにてVCファンドに出資**

非不動産案件を扱う部署「ストラクチャードファイナンス営業第三部」新設（4/1）

厳格なリスク管理

- **厳しい環境に対応するべく、債権の保全・回収を強化**
- **審査役の設置、専任の審査部長を配置（4/1）**
- **リスクを軽減しつつ多様な取組みに対応できる「審査体制の強化」**

2008年9月期下半期 事業者支援プログラムについて

1. コンセプト

- ① 資金を事業者に供給することにより開発事業を支援
- ② 事業者は資金を得て開発事業を促進でき、マーケットの調整局面への対応へ寄与
- ③ 当社はアレンジ機能に加え、シニア等の安全性の高い資金や信用補完等の付加価値を供与

2. スキーム・特徴

- ① 当社が海外投資家とクライアントの間でパイプ役となり又はファンド創設（投資銀行業務）することにより資金力のある海外金融市場より資金を供給
- ② 大手不動産会社等からの信用補完を加えることでプロジェクト推進力を強化・補強
- ③ 有力不動産ファンド等への物件の売却先を予め決定することによりファイナンスを容易にする

3. 効果・影響

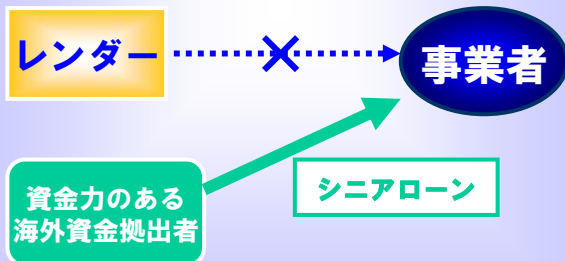
- ① 事業者が開発を促進できることで案件数の増加が見込める
- ② 新しいストラクチャーによるアレンジ手数料収益の増強
- ③ 信用力のあるビジネスパートナーとスキーム構築により関係強化

【スキームⅠ】

- 有力なシニアレンダーがないケース

当社の役割

資金力のある海外資金拠出者をアレンジすることにより、シニアローンの供給力をアップさせる

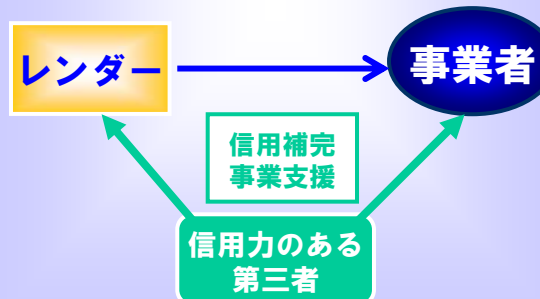


【スキームⅡ】

- 事業者のクレジットが弱いケース

当社の役割

信用力のある第三者の信用補完を活用し、良い条件でのファイナンスを組成する

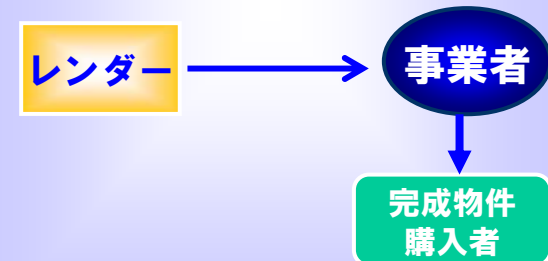


【スキームⅢ】

- 完成物件購入者をつけるケース

当社の役割

完成物件の購入者を予め決定することでより、良い条件でファイナンスを組成する



2008年9月期下半期 非不動産分野の取組みについて

<組織面>

2008年4月1日より「非不動産専門」の営業部署を立上げ、アレンジメント業務のエキスパートを配属。積極的な新規営業展開中であり、リピートの顧客対応ケースも出てきている。

<対象顧客>

成長著しい上場企業又は上場を目指す企業を対象とする。FGIのCIである「全産業にストラクチャードファイナンスの効用を！」を実現する為に、業種の特定をせずに全産業が対象。

<活動内容>

上記対象企業へアプローチする為に、国内外の金融機関やベンチャーキャピタル及びエクイティ投資家(特に出資先へハンスオンして成長を促進させるVC)と協働。特にFGIグループのFGC(フィンテックグローバルキャピタル)と連携して、エクイティでもないデットでもない「第三の資金調達手法＝ストラクチャードファイナンス」を提案してシナジー効果を追及して「成長資金」を供給。

<提案内容>

「**ワラント付仕組担保型小口ファイナンス**」という新商品概念をベースに、ミニマム数千万円程度から数十億円規模までの資金調達手法を提供。銀行等では担保となりにくい、**売掛金、在庫、設備等をFGIの金融先端技術で担保化するストラクチャードファイナンス**。ワラントを組み込むことで、成長企業の体力を損なわないように低めのクーポンの設定も可能となった。また、数千万円からの取組みとすることで、未上場の成長企業に対しても資金供与することが可能。リスク内容に応じて、ステラキャピタル(FGIグループ会社)の信用補完を利用することもあり。

同商品の特徴は、仕組み担保を付与することでファイナンスの元本の安全性を高め、クーポンで安定収入を確保。
更にワラントを取得することでアップサイドの利益を狙えるもの。



2008年9月期 通期業績の修正(個別・連結)

2008年9月期 通期業績 予想修正(個別)

個別

(単位:百万円)

	前回 業績予想	今回 業績予想	上半期実績	増減額 (対 前業績予想)	増減率(%) (対 前業績予想)	2007年 9月期実績
売上高	8,350	5,412	3,477	-2,937	-35%	7,287
経常利益	3,793	1,119	885	-2,673	-71%	3,731
純利益	1,972	364	226	-1,608	-82%	1,806

【下半期営業環境】

金融市場の混乱による信用収縮および不動産マーケットの調整が続くことが想定され、金融機関による不動産への融資姿勢も依然として厳しいと予想。このため、不動産開発案件を抱える事業者から、当社の開発型証券化およびブリッジローンへの引合いは強いものの、案件への資金調達が難しい環境は平成19年11月14日発表の予算作成時より、深刻になっています。

【業績】

通期の売上高については、中間期までの売上減少に加え、下半期も開発型証券化案件及びブリッジローン案件の組成額が当初の見込みより減少することにより、当初予想を大幅に下回る見込み。しかしながら、非不動産案件を積極的に取込むこと及び不動産証券化についても資金力のある海外資金拠出者をアレンジするなどの新しい切り口の取組みにより、収益の確保を目指します。

2008年9月期 通期業績 予想修正(連結)

連結

(単位:百万円)

	前回 業績予想	今回 業績予想	上半期実績	増減額 (対 前業績予想)	増減率(%) (対 前業績予想)	2007年 9月期実績
売上高	17,607	15,626	8,961	-1,980	-11%	16,914
経常利益	6,853	4,768	1,636	-2,085	-30%	5,951
純利益	1,991	614	-415	-1,377	-69%	1,767

【売上高】

売上高については、子会社エフエックスオンラインが、下半期も引続き好調を維持する見通しであるものの、前頁の通り、個別の売上が当初の見込みより減少すること、その他の子会社の売上高が目標に達しない見込みであること及び中間期までの連結の売上が未達になったことにより、当初の見込みを修正するに至りました。

【利益】

営業利益については、売上減少及び中間期での貸倒引当金繰入計上の影響により当初の予想より減少する見込みです。Stellar Capital AG及びCrane Reinsurance Limitedが行う資金運用で中間期に計上した為替差損及び有価証券評価損については、現状の為替動向及び市場動向から判断し、通期において一定の回復を見込んでいるものの、売上減少、営業利益減少の影響により、経常利益、当期純利益とも、予想値に対し減少する見込みとなりました。

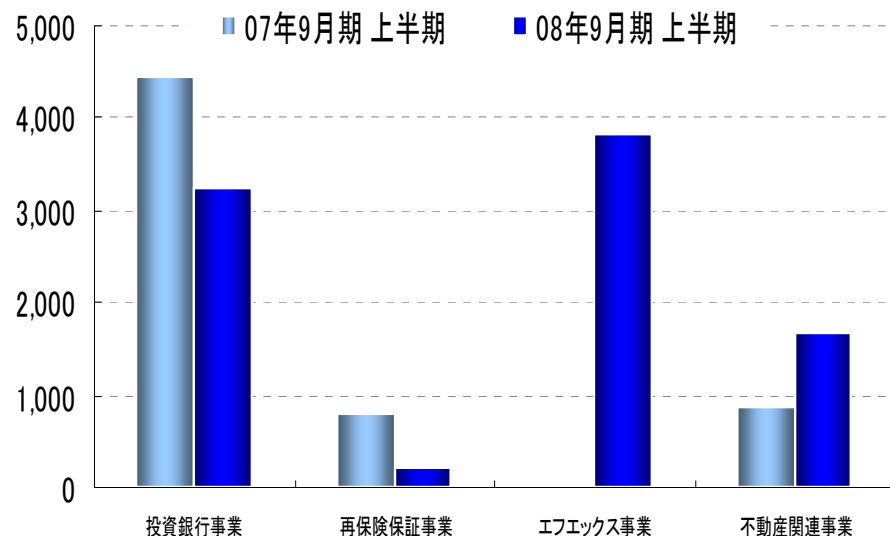
セグメント別 営業概況説明

連結 セグメント別業績

【単位：百万円】	売上高			営業利益		
	07年9月期	08年9月期	差異	07年9月期	08年9月期	差異
	上半期	上半期		上半期	上半期	
投資銀行事業	4,467	3,231	-1,235	2,899	671	-2,228
再保険保証事業	815	203	-611	-43	-120	-76
エフエックス事業	-	3,847	3,847	-	1,914	1,914
不動産関連事業	869	1,678	808	-135	43	179
消去又は全社	-	-	-	(104)	(196)	-
合計	6,151	8,961	2,810	2,615	2,312	-302

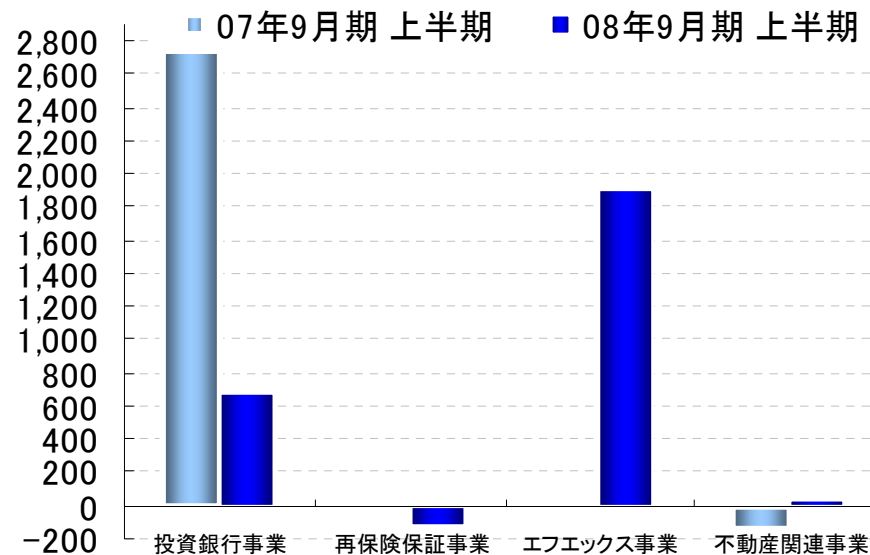
売上高

【単位：百万円】



営業利益

【単位：百万円】



*エフエックス事業に関しては2007年第3四半期より開始しております。

2008年9月期 上半期 グループ会社業績 各社単体業績連結調整前

通期業績予想の修正に伴い、各子会社に対しても業績予想を修正いたしました。

(単位:百万円)

ステラキャピタル	2007年9月期	2008年9月期 上半期	2008年9月期	進捗率(%)	2008年9月期	増減 (対 当初予想)
	通期実績	実績	当初業績予想		業績予想	
売上高	1,719	126	277	45.5%	142	-135
経常利益	293	-475	284	—	11	-273
純利益	317	-475	210	—	8	-202

FRE	2007年9月期	2008年9月期 上半期	2008年9月期	進捗率(%)	2008年9月期	増減 (対 当初予想)
	通期実績	実績	当初業績予想		業績予想	
売上高	421	1,609	2,000	80.5%	2,009	9
経常利益	320	-77	350	—	207	-143
純利益	194	-57	203	—	110	-93

FXO	2007年4月~9 月	2008年9月期 上半期	2008年9月期	進捗率(%)	2008年9月期	増減 (対 当初予想)
	6ヶ月実績	実績	当初業績予想		業績予想	
売上高	3,139	3,847	6,471	59.4%	7,928	1,457
経常利益	2,244	2,627	4,170	63.0%	5,408	1,238
純利益	1,328	1,559	2,460	63.4%	3,200	740

FGS	2007年9月期	2008年9月期 上半期	2008年9月期	進捗率(%)	2008年9月期	増減 (対 当初予想)
	通期実績	実績	当初業績予想		業績予想	
売上高	112	99	296	33.4%	175	-121
経常利益	-110	-29	7	—	-21	-28
純利益	-110	-31	7	—	-23	-30

イントラスト	2007年9月期	2008年9月期 上半期	2008年9月期	進捗率(%)	2008年9月期	増減 (対 当初予想)
	通期実績	実績	当初業績予想		業績予想	
売上高	8	59	288	20.5%	312	24
経常利益	-126	-48	3	—	2	-1
純利益	-127	-48	3	—	2	-1

連結業務内容サマリー

■ 投資銀行事業

アレンジャー業務

フィンテック グローバル(当社)

プリンシパルファイナンス業務

フィンテック グローバル(当社)
 ◎フィンテック リアルエステート
 ◎フィンテック プリンシパル インベストメント
 ◎FGIプリンシパル

その他投資銀行業務

フィンテック グローバル(当社)
 ◎フィンテック グローバル証券
 ◎FINTECH GIMV FUND,L.P.

■ 再保険保証事業

保証供与

◎Stellar Capital AG
 フィンテック グローバル(当社)

再保険引受

◎Crane Reinsurance Limited

滞納家賃保証

◎イントラスト

売掛債権保証

◎リライアブルファクターズ

■ 不動産関連事業

不動産開発・売買・賃貸・仲介業務

◎フィンテック リアルエステート

■ エフェックス事業

外国為替証拠金取引業務

◎エフェックス・オンライン・ジャパン

2-1.投資銀行事業/アレンジャー業務の営業概況

アレンジメント

資産流動化等のストラクチャードファイナンス案件を実行するための「仕組み」の策定、投資家等プロジェクト参加者の招聘および意見調整、法的・会計的・税務的な視点からの検証等、さまざまな案件を具体化し組成します。

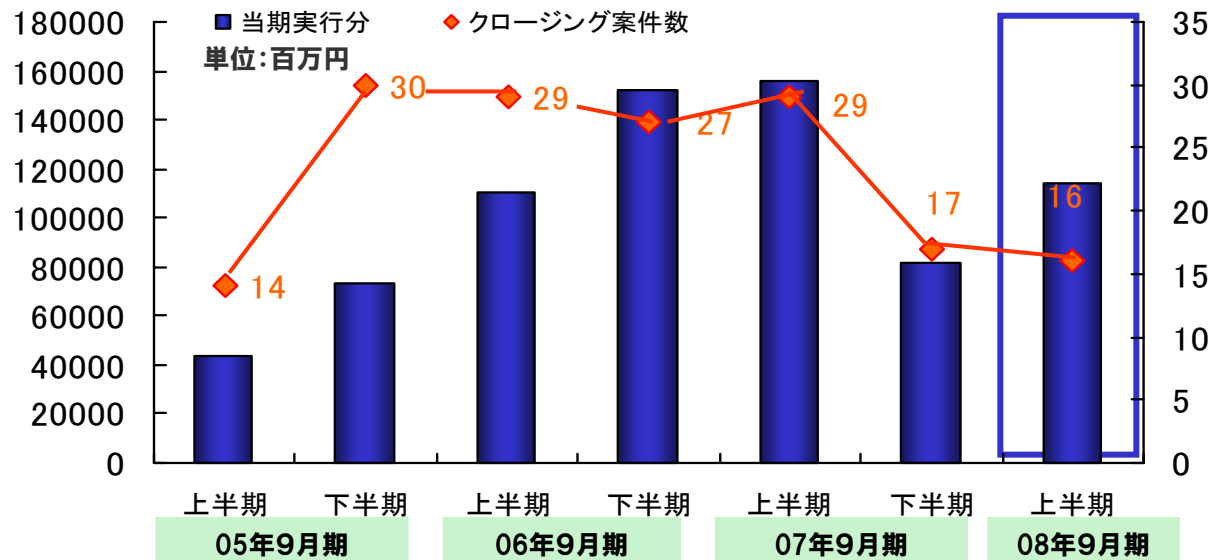
<当社アレンジメント案件組成総額推移>

(単位: 百万円)

	05年9月期		06年9月期		07年9月期		08年9月期
	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期
当期実行分	43,699	73,483	110,445	151,806	155,732	81,789	114,095
売上高(アレンジャー業務:個別)	840	1,310	1,682	2,996	2,941	1,016	1,934
クロージング案件数	14件	30件	29件	27件	29件	17件	* 16件
新規顧客獲得数	14件		6件	1件	6件	6件	8件

● アレンジメント案件組成総額とは、当社がアレンジした金融プロダクトに対する金融機関、投資家等からの投融资総額(調達資金総額)です。アレンジメント案件組成総額には信用補完付アレンジメント案件の組成実行高も含まれております。● 新規顧客獲得数: 当該期間中に取引を開始した顧客

* クロージング案件数: 共同アレンジ等の案件4件を除く



アレンジメント組成実行額は、当上半期にて114,095百万円となりました。これは前年度組成できなかった大型案件の一部の組成が第1四半期において業績に反映されたことによるものであります。

しかしながら、アレンジャー業務を取り巻く環境は予想以上に厳しくなっており、案件の組成難易度も確実に上昇してきております。

2-2 投資銀行事業/信用補完付アレンジメントの営業概況

当社の「信用補完」は証券化や各種ストラクチャードファイナンスの仕組み上に存在するファイナンスリスクを「保証」などにより保証会社や保険会社に引き寄せ、仕組みの安定化を図るものです。この信用補完を案件組成に取り入れることにより、仕組みの安定化が図れ、結果として証券化コストが安価になるケースや今まで証券化不能であったものが組成可能となるケースもあります。スイスに設立したステラキャピタルを活用し、信用補完をつけることで金融機関から投融資が可能な形にアレンジを行います。

<当社信用補完付アレンジ実績>

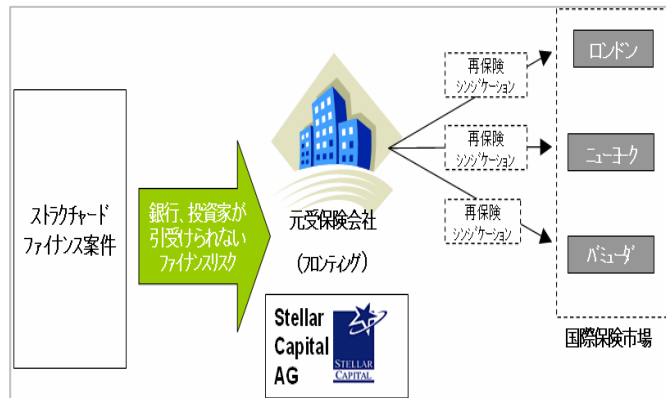
(単位: 百万円)

	05年9月期	06年9月期	07年9月期	08年9月期 上半期
売上高	0	939	607	109
売上原価	2	32	13	2
売上総利益	-2	906	593	106
案件数(件)	0	8	4	1(他に共同アレンジ案件への保証1件有)

信用補完付アレンジメントについては、ステラキャピタルAGの保証を要する案件はありませんでしたが、当社保証による1件の信用補完を実行しました。(他に共同アレンジ案件への保証1件有)

従来の信用補完業務のプロセス:

- ①ストラクチャー(仕組み)上のリスクの切り出し
- ②切り出されたリスクの元受保険会社(フロンティング)の策定
- ③(ケースによっては)最終リスク引受者である再保険会社へのアプローチ

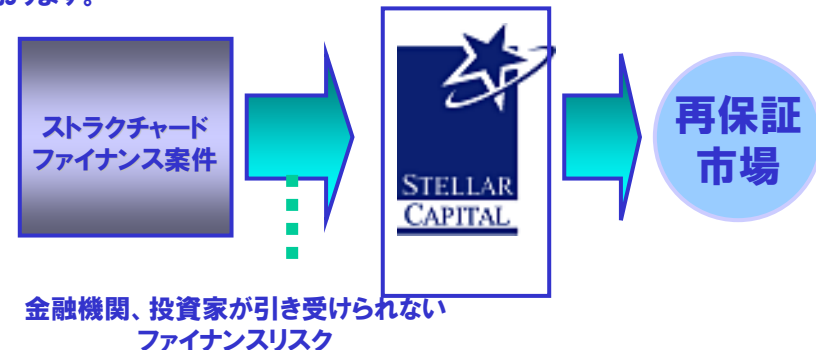


現状

現状の信用補完業務のプロセス:

再保険会社へのアプローチは非常に労力と準備作業を必要とします。一般的な信用補完の場合、国際三大保険市場に存在する再保険会社のうち20社~50社程度が分散してリスクを引受けるため、シンジケーションに多大な時間がかかります。

当社では、信用補完業務の効率化、利益率の向上を図るため、2006年3月にStellar Capital AG を設立し、同社による保証引受を開始しております。



2-3.投資銀行事業/プリンシパルファイナンス業務の営業概況

当社自身が資金供給者(投資またはレンダー)として、投融資(匿名組合出資・シニア・メザニンローン、コーポレートローン)を行います。

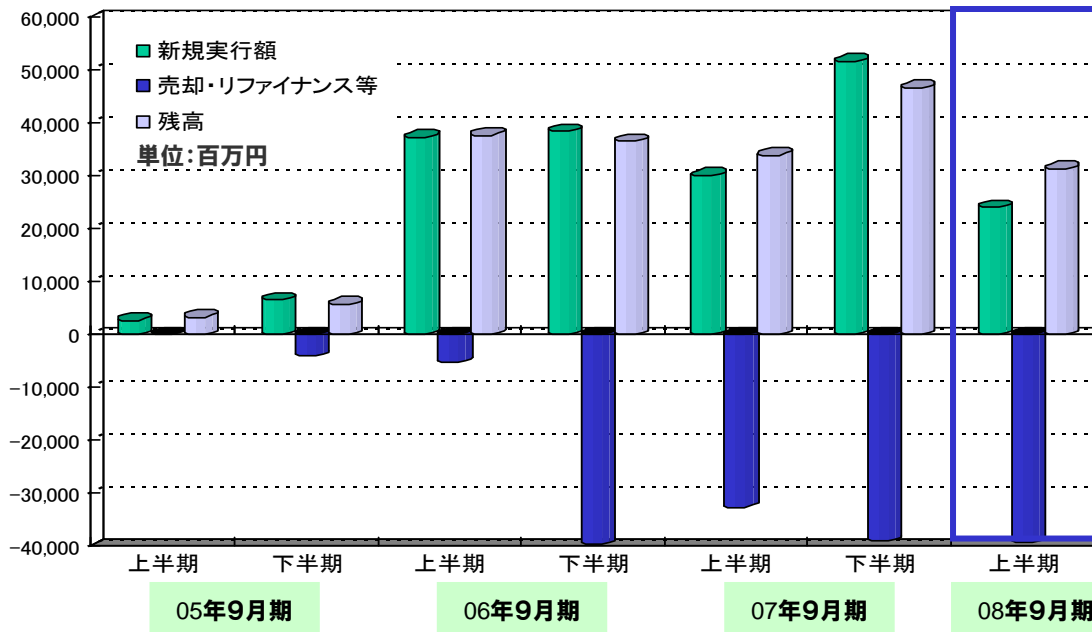
＜当社投融資実行残高＞

(単位: 百万円)

単体	05年9月期		06年9月期		07年9月期		08年9月期
	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期
新規実行額	2,693	6,526	37,290	38,380	30,060	51,623	25,278
売却・リファイナンス・アービトラージ	39	4,074	5,344	39,567	32,579	39,020	40,685
残高	3,295	5,747	37,693	36,506	33,987	46,590	31,183
売上高(個別)	28	228	860	1,777	1,538	1,635	1,437

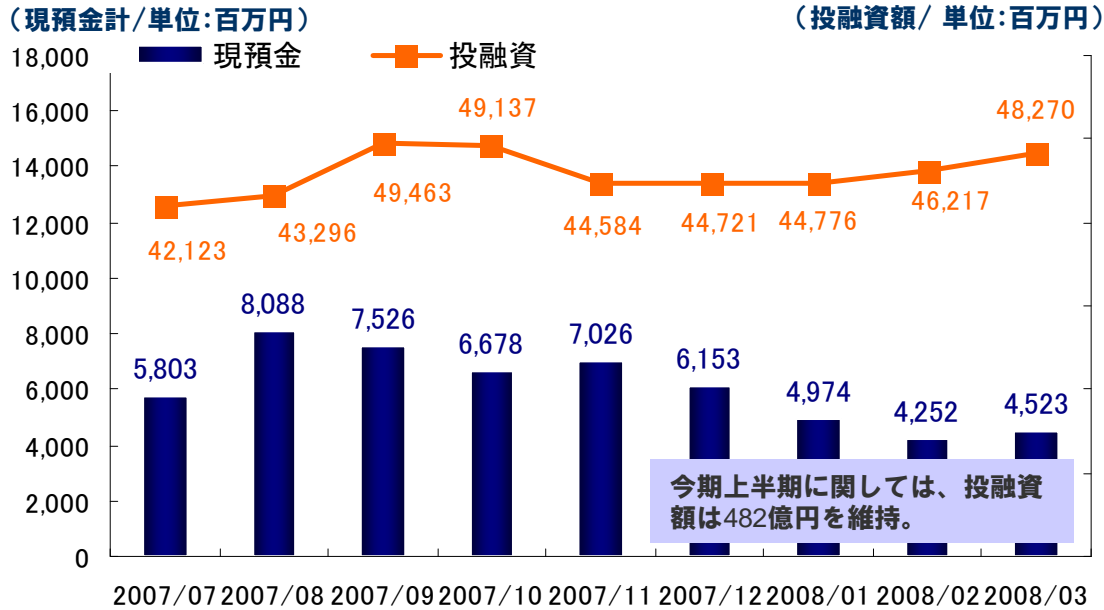
08年9月期
上半期

子会社への
貸付残高
17,515百万円



今期より、リスク管理の一環として投融資基準を大幅に厳格化し、案件の選別においても厳格に行っております。また、一部の大型案件のストラクチャーの変更等により、子会社SPCを通じての投融資が増加しております。
詳細：P21

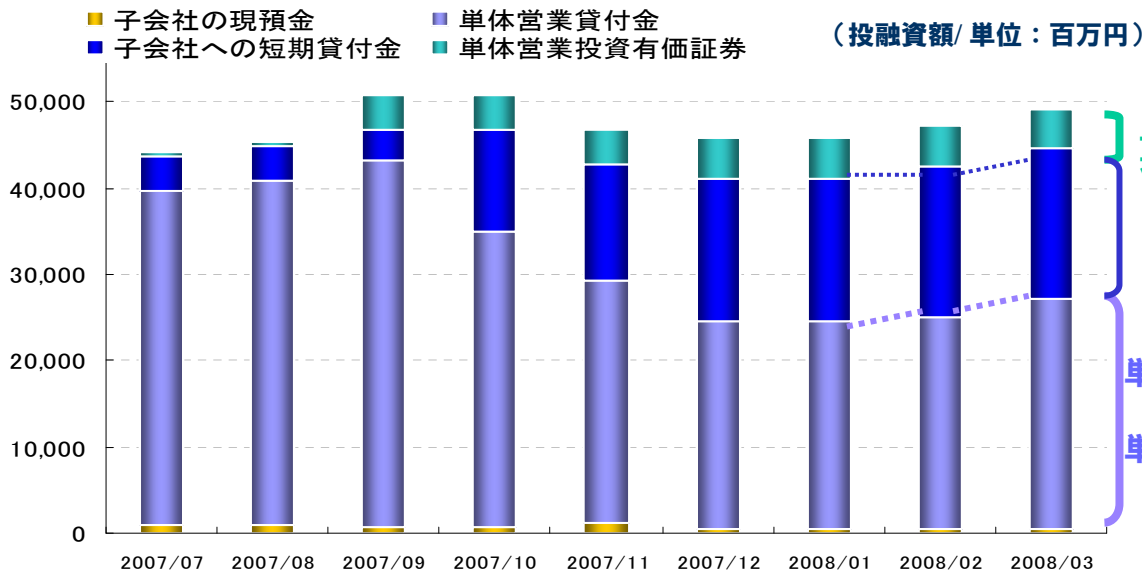
参考資料 現預金及び投融資残高の推移(投融資を行うグループ会社の合計)



現預金:
FGIグループでプリンシパルファイナンスを行っている会社の現預金

投融資:
FGIグループのプリンシパル残高 - 子会社の現預金

*前上半期まで記載していた「現預金及び営業貸付金の推移」はFGIのみの数字でありましたが、子会社における投融資額が増加傾向にあるため、2007/9月期第3四半期より、子会社における投融資(不動産関連投融資)も加味した数値を記載しております。



*連結投融資残高

単体における投融資残高は減少傾向であるものの、FGIグループとしての総投融資残高は、FGIから子会社SPCへの営業貸付金が増加したことにより、年間想定平均投融資残高である350億円までは減少せず、当上半期においては482億円程度を維持する結果となりました。

(子会社: FRE, FGIプリンシパル)

参考資料 プリンシパルファイナンスのポートフォリオ(連結)

(単位:百万円、件)

種別	～6ヶ月		7ヶ月～12ヶ月		13ヶ月～18ヶ月		19ヶ月～		合計	
	金額 (シェア)	件数	金額 (シェア)	件数	金額 (シェア)	件数	金額 (シェア)	件数	金額 (シェア)	件数
建築確認前ブリッジ	8,865 (34.2%)	5	3,110 (12.0%)	4	0 (0.0%)	0	0 (0.0%)	0	11,975 (46.2%)	9
開発型メザニン等	1,180 (4.6%)	1	5,680 (21.9%)	4	410 (1.6%)	1	0 (0.0%)	0	7,270 (28.1%)	6
運用型メザニン等	0 (0.0%)	1	578 (2.2%)	2	1,304 (5.0%)	3	875 (3.4%)	2	2,757 (10.6%)	8
その他(非不動産及びコーポレートローン)	☆ 2,726 (10.5%)	3	0 (0.0%)	0	0 (0.0%)	0	1,190 (4.6%)	3	3,916 (15.1%)	6
合計	12,771 (49.3%)	10	9,368 (36.1%)	10	1,714 (6.6%)	4	2,065 (8.0%)	5	25,918 (100.0%)	29

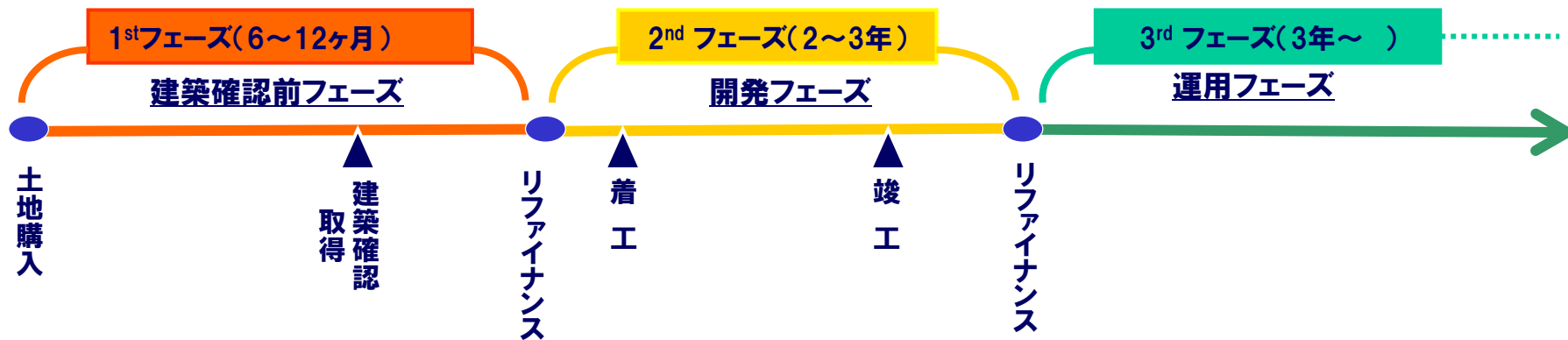
85.4% * プリンシパルファイナンスのうち営業貸付金みのみのポートフォリオとなります。営業投資有価証券、たな卸資産の一部は含んでおりません。

☆ 子会社SP&W・アスクレビオス投資事業組合4号からの資金拠出22億円の出資分を含んでおります。

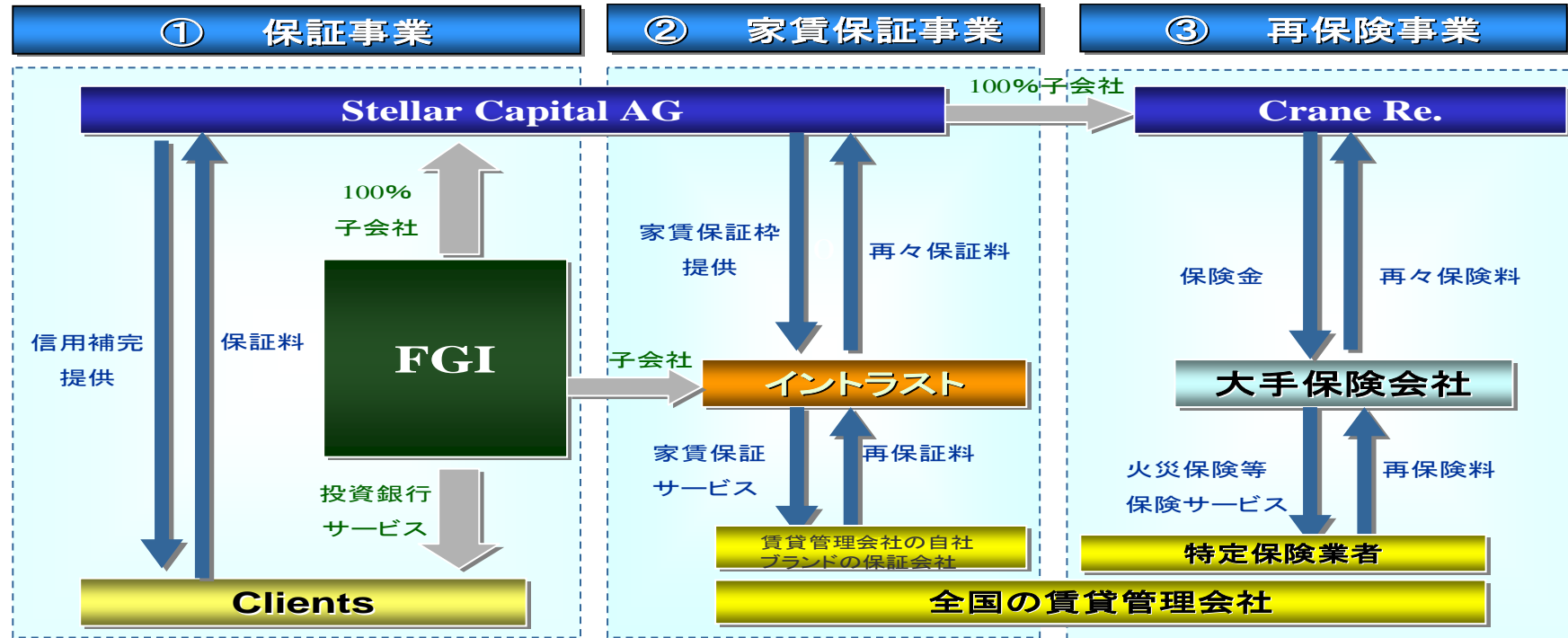
当社のプリンシパルファイナンスポートフォリオの特徴として、比較的短期間のローン、貸付期間が7～12ヶ月のものが、全体の約85%を占めております。

当社としましては、不動産マーケットの調整局面にあることから、今後、絶対的に不足すると考えられるシニアローンに対するプリンシパルファイナンスの実行に注力していくと共に、貸付期間が1年を超える開発型メザニン・運用型メザニン及びその他(Non不動産)へのファイナンスに関して、貸付債権を売却することで資金の回転率を高め、新たな収益機会の獲得を目指していく所存です。

<不動産開発及び運用についての流れ>



3.再保険保証事業の営業概況



(単位:百万円)

連結	2007年 9月期	2008年 9月期	2008年 9月期	進捗率
	通期	上半期	当初業績 予想	
売上高	1,720	203	516	39%

2008年9月期
業績予想

400

Stellar Capital/Crane Re:

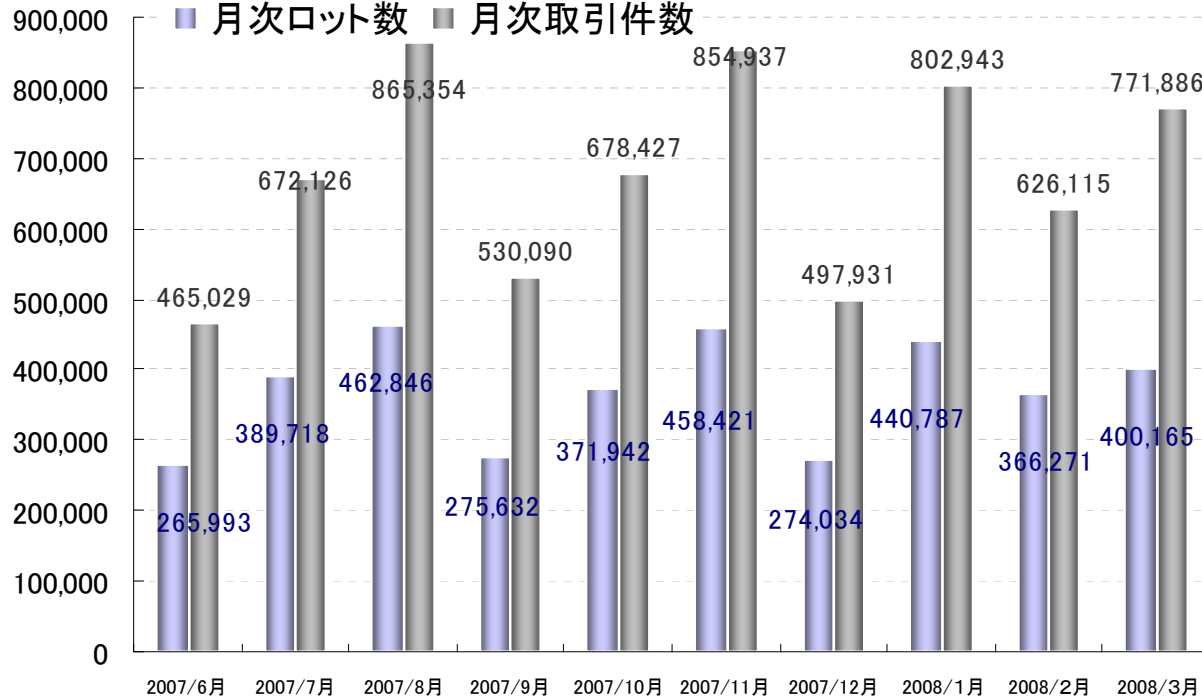
上半期においては、Stellar Capitalによる保証を要する信用補完案件が組成されなかったため、既存案件の保証に対する期間収益のみ売上計上を行いました。Crane Reは再保険引受スキームの一部見直しを行っているため、新規契約の引受は停止し、既存契約の既経過保険料のみ収益計上しております。なお新スキームについては、早期稼働に向け関係者との最終調整に入っておりますが、今期中の始動は難しい状況です。今後進展があり次第、発表して参ります。また、Stellar/Craneとも、資金運用において為替/金融市場の変動による為替差損及び評価損を営業外費用として計上しております。

イントラスト:

大和リビングとの業務提携が寄与し、3月に単月黒字転換をしております。

4. エフェックス事業の営業概況

エフェックス事業は、平成19年1月から3月にかけて株式取得を行ない、前期より連結決算に収益を取り込んでいる、エフェックス・オンライン・ジャパン株式会社（FXO社）が行う事業であります。同社の事業領域でありますインターネットを使った外国為替証拠金取引事業は、競合が激しいものの、市場規模は急拡大しております。



競争激化のマーケットの中で、積極的なマーケティング活動により顧客数が順調に増加したことに加え、サブプライム問題により外国為替市場のボラティリティーが高まり、10月から11月、また3月に対ドルで円高が急速に進行しました。顧客数も安定的に増加、また市場ボラティリティーの上昇により積極的な顧客のお取引に支えられ四半期として 過去最高の取扱高となりました。

1ロットとは...
各通貨ペア一十萬通貨単位
上記件数はすべての取引を含みます。

(単位:百万円)

	2007年9月期 (下半期実績)	2008年9月期 上半期	2008年9月期 当初 業績予想	進捗率
売上高	3,139	3,847	6,471	59.4%

2008年9月期
業績予想
7,928

5.不動産関連事業の営業概況

不動産関連事業では、主に当社グループのフィンテックリアルエステート及び連結の範囲に含めているSPCの不動産の仲介・売買・賃貸収益等、当社開発型証券化のアレンジメント過程において発生する収益機会を取り込んでおります。

連結(百万円)	2007年9月期	2008年9月期 上半期
不動産関連事業売上高	5,069	1,678
内 不動産売買売上	4,436	1,607
内 配当売上	6	-5
内 賃料収入	121	66
内 仲介手数料	505	9

子会社において1件の不動産売却が発生し、約16億円を売上計上しております。また、その他連結しているSPCの保有する物件からの賃料収入などを計上しております。

財務ハイライト

1. 連結 貸借対照表

資産の部 (単位: 千円、%)

	07年9月期		08年9月期上半期	
流動資産	82,248,886	90.6	99,703,927	93.3
現金及び預金	15,263,735	1	12,142,758	
預託金	10,214,673		8,425,306	
売掛金	5,962		5,466	
営業投資有価証券	4,571,706		5,156,587	
たな卸資産	5,864,266		39,695,936	2
営業貸付金	40,454,941		25,918,900	
その他	6,025,010		9,818,479	
貸倒引当金	△ 151,409		△ 1,459,508	3
固定資産	8,491,587	9.4	7,203,040	6.7
有形固定資産	267,825	0.3	302,907	0.3
無形固定資産	6,666,727	7.4	5,938,704	5.5
投資その他の資産	1,557,035	1.7	961,428	0.9
資産合計	90,740,474	100.0	106,906,968	100.0

負債の部 (単位: 千円、%)

	07年9月期		08年9月期上半期	
流動負債	35,350,755	38.9	55,189,076	51.6
短期借入金	14,351,700		32,489,000	
顧客預り金	9,992,733		8,064,980	6
一年以内返済予定長期借入金	7,272,056		6,989,960	
その他	3,734,263		7,645,134	
固定負債	28,198,620	31.1	24,565,134	23.0
新株予約権付社債	22,170,000		22,170,000	
長期借入金	4,532,140		1,261,949	
その他	1,496,479		1,133,184	
負債合計	63,549,376	70.0	79,754,210	74.6

純資産の部 (単位: 千円、%)

	07年9月期		08年9月期上半期	
株主資本	25,027,828	27.6	23,738,172	22.2
資本金	10,736,448	11.8	10,764,217	10.1
資本剰余金	10,351,900	11.4	10,351,900	9.7
利益剰余金	3,939,480	4.4	2,622,054	2.4
評価・換算差額等	△ 17,163	△0.0	△ 69,471	△0.1
新株予約権	4,974	0.0	11,556	0.0
少数株主持分	2,175,458	2.4	3,472,499	3.3
純資産合計	27,191,098	30.0	27,152,757	25.4

負債純資産合計	90,740,474	100.0	106,906,968	100.0
----------------	------------	-------	-------------	-------

- 1 預託金:FXO外国為替証拠金取引にかかる顧客分別預り金信託
- 2 たな卸資産・営業貸付金:大型案件のストラクチャー変更に伴い、不動産を所有しているSPCに匿名組合出資し、一時的に連結したことから、営業貸付金が減少、販売用不動産を含むたな卸資産、及び短期借入金が大幅に増加
- 3 主に医療機器案件にかかる引当金計上
- 4 無形固定資産:FXOのれん等
- 5 VCファンドの連結によるもの
投資その他資産 418百万円 少数株主持分 463百万円
- 6 顧客預かり金:FXO顧客預り金

2. 連結 損益計算書

(単位: 千円、%)

	07年9月期上半期		08年9月期上半期		07年9月期	
売上高	6,151,674	100.0	8,961,842	100.0	16,914,147	100.0
売上原価	1,856,676	30.2	1,659,474	18.5	5,481,682	32.4
売上総利益	4,294,997	69.8	7,302,367	81.5	11,432,464	67.6
販売費及び一般管理費	1,679,644	27.3	4,989,378	55.7	5,145,487	30.4
営業利益	2,615,352	42.5	2,312,989	25.8	6,286,977	37.2
営業外収益	271,214	4.4	103,015	1.2	308,516	1.8
営業外費用	454,356	7.4	779,942	8.7	643,822	3.8
経常利益	2,432,210	39.5	1,636,062	18.3	5,951,671	35.2
特別利益	11,720	0.2	0	0.0	11,720	0.1
特別損失	106,588	1.7	187,728	2.1	146,183	0.9
税金等調整前中間(当期)純利益	2,337,342	38.0	1,383,439	15.4	5,817,208	34.4
法人税等	1,180,458	19.2	1,043,443	11.6	2,537,111	15.0
少数株主損益	65,759	1.1	△755,501	△8.4	△1,512,311	△8.9
中間(当期)純利益	1,222,643	19.9	△415,505	△4.6	1,767,784	10.5

1 売上高 Total 8,961百万円

エフエックスオンラインの売上が予想を上回るも、FGI単体及びその他子会社が計画未達となり、ほぼ予想通りの実績となりました。FXO(エフエックス事業)を除く上半期の売上は5,113百万円となり、前年同期比△1,037百万円となりました。(前年同期においてはFXOは連結対象になっておりません。)

2 販管費 Total 4,989百万円

医療機器案件による引当1,268百万円(詳細に関してはP6参照)

3 営業外費用 Total 779百万円

有価証券評価損 344百万円
為替差損 130百万円

4 少数持分損益 Total △755百万円

FXOの当社持分が45%であるため、同社の純利益の55%を少数株主持分として控除

3.個別 貸借対照表

資産の部 (単位: 千円、%)

	07年9月期		08年9月期上半期	
流動資産	57,380,752	73.2	52,389,146	72.1
現金及び預金	6,836,785		4,095,012	
売掛金	6,195		945	1
営業投資有価証券	3,986,713		4,555,000	
営業貸付金	42,603,000		26,628,000	
短期貸付金	3,562,000		17,515,000	2
その他	548,752		1,079,746	
貸倒引当金	△ 162,695		△ 1,484,559	
固定資産	20,982,185	26.8	20,270,680	27.9
有形固定資産	183,312	0.3	180,137	0.3
無形固定資産	12,425	0.0	11,920	0.0
投資その他の資産	20,786,448	26.5	20,078,622	27.6
資産合計	78,362,938	100.0	72,659,826	100.0

1 **プリンシパルファイナンス 投融資額 P20参照**
 (営業投資有価証券+営業貸付金)
 総額: 31,183百万円

2 **短期貸付金の増加:**
 子会社に対する貸付が増加 P20.21参照

3 **投資その他資産: 子会社出資金**
 ステラキャピタル: 約100億円、FXO: 約82億円

負債の部 (単位: 千円、%)

	07年9月期		08年9月期上半期	
流動負債	27,287,380	34.8	24,883,102	34.2
短期借入金	18,779,000		12,696,000	
一年以内返済予定長期借入金	7,272,056		6,989,960	
前受金	—		3,700,000	
その他	1,236,324		1,497,142	
固定負債	26,125,321	33.4	23,456,907	32.3
新株予約権付社債	22,170,000		22,170,000	
長期借入金	3,932,140		1,258,400	
その他	23,181		28,507	
負債合計	53,412,701	68.2	48,340,010	66.5

純資産の部 (単位: 千円、%)

	07年9月期		08年9月期上半期	
株主資本	24,962,424	31.9	24,314,510	33.5
資本金	10,736,448	13.7	10,764,217	14.8
資本剰余金	10,351,900	13.2	10,351,900	14.3
利益剰余金	3,874,076	5.0	3,198,392	4.4
評価・換算差額等	△ 17,163	△0.0	△ 6,250	△ 0.0
新株予約権	4,974	0.0	11,556	0.0
純資産合計	24,950,236	31.8	24,319,816	33.5

負債純資産合計	78,362,938	100.0	72,659,826	100.0
----------------	------------	-------	------------	-------

4. 個別 損益計算書

(単位: 千円、%)

	07年9月期上半期		08年9月期上半期		07年9月期	
売上高	4,667,087	100.0	3,477,969	100.0	7,287,612	100.0
売上原価	364,451	7.8	210,518	6.1	740,799	10.2
売上総利益	4,302,636	92.2	3,267,450	93.9	6,546,812	89.8
販売費及び一般管理費	1,065,854	22.8	2,421,867	69.6	2,316,585	31.8
営業利益	3,236,781	69.4	845,583	24.3	4,230,227	58.0
営業外収益	34,064	0.7	220,261	6.3	116,134	1.6
営業外費用	415,945	8.9	179,973	5.1	615,256	8.4
経常利益	2,854,900	61.2	885,872	25.5	3,731,105	51.2
特別利益	7,539	0.2	0	0.0	0	0.0
特別損失	412,157	8.8	482,404	13.9	627,125	8.6
税引前中間(当期)純利益	2,450,281	52.5	403,467	11.6	3,103,979	42.6
法人税等	1,017,540	21.8	177,231	5.1	1,297,356	17.8
中間(当期)純利益	1,432,740	30.7	226,235	6.5	1,806,623	24.8

1 売上高 Total 3,477百万円 (1Q: 2,486百万円)

不動産開発プロジェクト案件への金融機関のノンリコース・ローンが減少し、それに起因して、当社が行うファイナンスアレンジは難易度が上昇しました。また、直近の不動産価格の動向を鑑み、当社は平成19年10月より審査基準を厳格化し、案件の選別を行った結果、第1四半期においては、前期からの仕掛かりの大型案件の一部の組成が完了し、業績に寄与したものの、第2四半期においては、案件のキャンセル等も発生し1Q実績を下回る結果となりました。

2 販管費 Total 2,421百万円

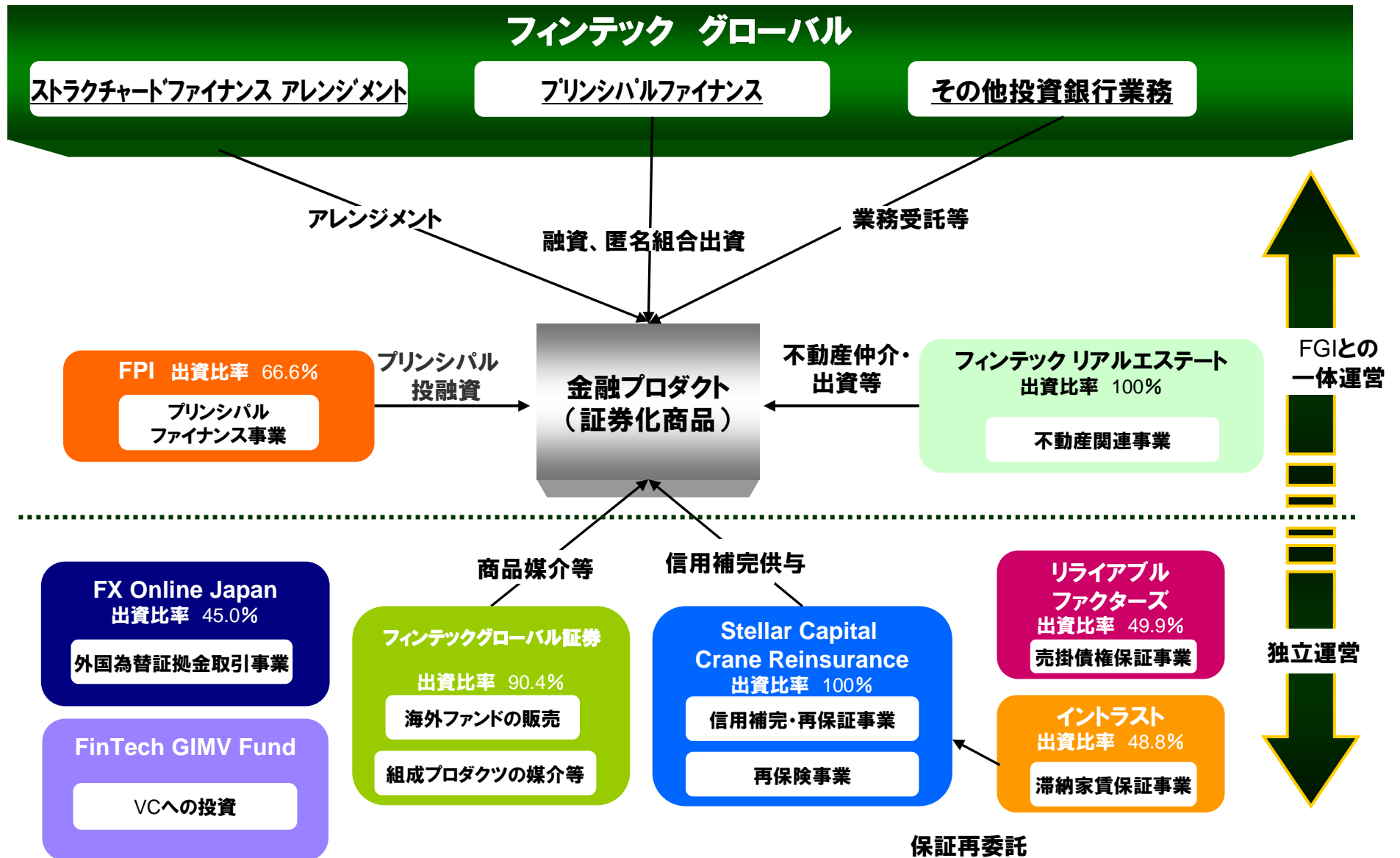
医療機器案件による引当1,268百万円
(詳細に関してはP6参照)

3 特別損失 Total 482百万円

子会社整理に伴う
投資有価証券売却損 68百万円
投資損失引当金繰入額 256百万円

補足資料

FGIグループ関連図



参考資料 当社アレンジメント案件組成総額 金融機関別投融资累計

(単位: 百万円)

	05年9月期		06年9月期		07年9月期		08年9月期
	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期
信託銀行	45,134	62,974	91,206	108,701	132,036	143,836	163,736
都市銀行	34,180	69,554	96,381	161,143	200,253	205,653	219,018
地方銀行	2,189	5,818	11,037	14,597	14,597	14,597	15,247
FGI	3,574	10,100	45,891	61,519	83,584	105,174	113,344
その他投資家等 (ノンバンク・ 外資系金融機関)	5,427	15,541	29,918	80,279	151,501	194,500	266,510
合計	90,504	163,987	274,432	426,238	581,971	663,760	777,855

